

2019. 10. 24

畑 啓之

即位礼正殿の儀（10月22日）のような時代を感じる「御侍史」という言葉

「御侍史」。実に見慣れない言葉である。正確な読み方もわからない。たとえば、某大先生御侍史のように使う。

久しぶりにわからない言葉に出会った。忘れないようにここに書き留めておくことにした。

御侍史、御机下は医療業界だけ！

<https://kango-oshigoto.jp/media/article/71/>

ドクターが手紙を書くとき、相手の先生の宛名を「〇〇先生御侍史」「〇〇先生御机下」と書くことがあります。

これは、医療業界にだけ残っている独特の文化なんです。

「なんか尊敬してる感じがするから！」とあって、ふつうの手紙で使わないように気をつけましょう。

通常は「〇〇様」で十分です。

ちなみに、「御侍史」（おんじし、ごじし）は、秘書やお付きの人のこと。

「先生に直接手紙を出すのは失礼なので、お付きの人が開けてくださいね」という意味がこめられています。

「御机下」（おんきか、ごきか）は、「直接渡すのは恐れ多いので、机の下に置いておきますね」という意味。

どちらも「お医者様、エライ人！」という風潮が行きすぎってしまった感じが、病院という場所の独特な空気を物語っているようで興味深いですね。

御机下と御侍史の違い

<https://investmentinme.org/1678.html>

御机下と御侍史の違いが気になる場所ですが、医療業界では明確な使い分けのルールはありません。

どちらを使用するかを指摘する医師はかなり稀ですので、医療業界における違いはないと考えても良いのですが、あえて違いを申し上げると2つあります。

①侍史を通しての連絡か、直接机の下に届くのか

②御侍史は個人宛でも「担当医 先生 御侍史」のように相手がわからなくても使用できるが、御机下は個人宛のみに使用できる。

また、総合病院の幹部クラスの医師など、秘書がいらっしゃることがわかっているならば「御侍史」を使い、それ以外医師へは「御机下」を使用するといった気の使い方はできます。